そわかシリーズ







・・・美術科において「みる力」は、きわめて重要な能力である。

• • •

「みる」とは通常「見る」と書く。しかし、いろいろな文字がある。

1 見る

この目で見ること。一般的に「みる」こと。外見を見る,眺めること 「見学,見物,見識,見て楽しむ,見たとおり」など

2 視 る

感覚器官である眼を働かせて見ること。実際に見て確かめること。 「視覚,視察,視聴,警視,視診,注視,凝視」など

3 観る

本質をみてとること。外見ではなくその内にある美,真理,心などの 価値をみてとること。

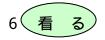
「観察, 観劇, 観賞, 観桜, 観音」など

4 鑑る

ものを見て,価値を見分け定めること。 「鑑賞,鑑定,鑑識,鑑別」: など

5 診る

病気がないかどうか実際に見て調べること。 「診察,診断,診療,触診,視診」など



様子や経過などをよく見ること。

「看護,看守,看板」など

美術の対象は「実在や想像の全宇宙,心の世界,美などの価値の世界」である。それらの全てに自分の全神経を集中して「観る,そこから想像力を働かせる」ことは美術の基本的命題である。「観る力,想像する力,感じ取る力」は一体となっており,美術の学習の原点にこの力の育成を置いていく必要がある。それは「ものの本質をつかむ力,心のありようを豊かにする力」の原動力になるものだからである。

観る力」を育てるということは、美術に限らず、今後の教育

を 進めていく上できわめて重要なことである。